

最大出水でも堤防安全

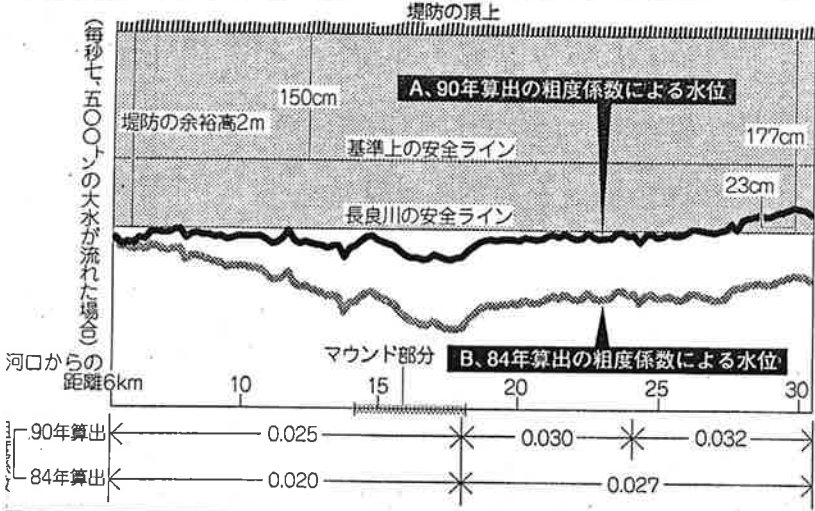
長良川 最新資料試算で判明

現在の長良川は、想定される最大出水(毎秒七千五百トン)でも、下流のほとんどの区間で、堤防の安全ライン以下で水が流れ、上流のごくわずかの区間で最大二十三センチ上回らないことが、建設省の最新の九九年度測量資料を使い、九三年度測量資料を使い、複数の河川工学専門家の協力を得て試算した結果、わかった。建設省がしゅんせつする予定のマウンド(川底が急に高くなっている部分)の区間も、安全ラインを下回っている。一部の専

門家からは「長良川河口堰(せき)を運用しながらマウンドを削る」とする同省の説明、ひいては河口堰の必要性についても疑問の声が出ている。

長良川の河口から四十八キロ区間には、自然の湖止め堰の役割をしているマウンドがある。建設省はこれを削らないと洪水は防げないと主張。その代わり、堰を運用し、海水のそ上を食い止めるとしてきた。

試算は、一九九三年度の長良川の測量資料(河床年報)と、同省算出の川の流れてくさくさを表す値(粗度係数)を使い、同省が定めた計算式で、九〇年に一度と想定している最大出水時に、堤防のどこまで水が迫ってくるかを計算した。



連日の雨で琵琶湖の水位が上昇し、付近の畑が冠水。滋賀県草津市の農家は水からメロンのハウスを守るうちフェンスを張った。「メロンは水に一度つかると、これは、これより上流だけだが、二十九・六キロ付近で二十三センチ上回るのが最大だ。」

今回より二年前の九一年度測量による試算では、二十九キロ付近で最大四十二センチ上回っていた。今回は、その後のしゅんせつの効果などで、長良川の安全性が高まったことがわかる。

グラフBは、八四年算出の粗度係数を用いた。三十三キロ付近までの区間でも、最大出水に、堤防のどこまで水が迫ってくるかを計算した。

グラフAは、一九九〇年算出の値で描いた水位。河口から二十六キロ付近までは、堤防最頂部から下二メートルの安全ライン(計画高水位)をさらに下回って流れることを示している。上回

るのは、これより上流だけだが、二十九・六キロ付近で二十三センチ上回るのが最大だ。

AとBの差は「粗度係数の値の違いによる。建設省は、七六年の安八・墨俣水害のデータを使って八四年にいったん、値を出しながら、九〇年、「不適切」として高い値を算出し直し、使っている。

当面、治水上、堰の運用は、マウンドのしゅんせつが妥当かどうかにかかっている。この点について、大熊孝・新潟大教授(河川工学)は「安全ラインを上回るといっても、最大でわず

か二十三センチ。その付近で川底をしゅんせつしたり、堤防を高くして河道容量を増やすことも可能」と言い、河口堰の運用自体に疑問を呈している。

建設省中部地方建設局の竹村公太郎河川部長は「マウンドは洪水の流れに支障となっており、上流部全体で洪水時の水位を高くしている。一刻も早くマウンドを取り除くことが、川の安全性を高めるために必要だ」としている。

津 4.50
津 18.51
津 18.51
津 21.28

名古屋標準	4.48
岐阜標準	4.48
岐阜標準	18.51
岐阜標準	18.51
岐阜標準	21.28
出入日	21.27
旧4月18日	

「定数の早期是正を期待」 市議会に見解表明へ

名古屋市長選管
名古屋市長選管
名古屋市長選管

「一票の価値」の格差を放置したまま実施した先の同市議選は無効だ」として名古屋市の弁護士グループが提出した異議申し出について十五日、「市議会が不均衡な定数配分を早期に是正することを期待する」という見解を示した。

雨続き被害
琵琶湖水位
プラス94センチ

降り続く雨で琵琶湖の水位は上昇し、十五日午後十一時現在、プラス九四センチを記録した。このため、滋賀

湖岸の滋賀県草津市北山田町のビニールハウスは軒並み浸水した。同市農林水産課によると、メロン栽培ハウス九棟などで、九百三

異議申し
竹内浩史氏
した。
これに対
管は申し出
決定理由の
配分は、人

論理)を
大もめ
保田誠一
川上洋一
報道四半
報にみる
渡辺啓
災ボラン
詳報
災被災者
助長谷川
の政治・経
料240円

ブッコ
ひる
が